庭園

協会ニュース

第101号

一般社団法人 日本庭園協会

東京都新宿区西早稲田 1-6-3 フェリオ西早稲田 301 号
〒 169-0051　TEL:03-3204-0595（FAX 兼用）
E-mail : gsj20@m7.dion.ne.jp　URL : http://nitteikyou.org/

発行者：会長　高橋 康夫
編集者：広報委員長　小沼 康子
題　字：上原 敬二
発行日：2020（令和 2）年 7 月 31 日

小石川後楽園　修復後の白糸の滝（2020.7 初旬　筆者撮影）

生きる希望の力・庭園

高橋 康夫

会員の皆様におかれましては、コロナ禍の中、大変不安な日々をお過ごしのこととお察しいたします。5月25日に緊急事態宣言は解除になりましたが、新型コロナウイルスが収束したわけではありません。〝姿が見えない敵〟は厄介でどこに潜んでいるか分かりません。引き続き3密にならないように感染予防に努めていただきますようお願い申し上げます。

この間、日本だけでなく、世界中が外出自粛や人との接触を制限され、当たり前の日常が当たり前でなくなった経験は近年にはありませんでした。

日本庭園協会においても3月に予定していた総会が変則開催となり、予定されていた多くの事業も延期または中止となっています。

6月には外出自粛が解除になり、外出を待ち望んでいた人たちが公園や庭園に押寄せました。家に籠り切りでは人は生きていけないのです。公園や庭園に出かけ、生きた自然に触れることで心を癒し、人と人とが会話を交わすことで生きることを実感できるのです。不要不急といわれた公園や庭園が、実は人が生きていくためには無くてはならない必要不可欠の空間であると理解されたのです。単なる生物として生きているのではなく、文化的生活をすることこそが人であるということなのです。

さて、今後の事業展開ですが、7月に入り、首都圏を含む主要都市で感染拡大が再燃しており、予断を許さない状況です。そのため、今年度予定していた事業を展開することは難しくなると予想しています。

そこで、このような時にできる事業を発掘し、展開したいと考えています。①創立百周年記念事業における講演会や伝法院庭園研修のまとめ②鑑賞研究委員会のアンケート③伝統庭園技塾のデータ化等を考えていますのでご期待ください。

7月初旬、久々に小石川後楽園に行きました。龍居竹之介名誉会長、廣瀬慶寛技術委員長が携わった白糸の滝が復活していました。滝をじっと見つめている方にお話を伺うと「新型コロナウイルスで鬱屈とした日々を過ごしていたが、緑が多く、静かな庭園にいると不思議と心が落ち着きます。滝が飛沫をあげて流れる様子を見ていると心が洗われます」と穏やかな表情で答えてくださいました。それは、ささくれた心を癒し、生きる希望を引き出す力が庭園にあることの証です。

今後、第二波、第三波が懸念されていますが必ず新型コロナウイルスは収束します。皆様と元気にお会いできる日が一刻も早く来ることを祈念しております。（会長）

令和2年度

一般社団法人 日本庭園協会定期総会

令和2年3月18日　東京四ツ谷・ビジネスセンター四谷

年明けから、中国をはじめ世界中で感染が広まり始めた新型コロナウイルス。2月初旬の大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の乗員客500人以上の陽性反応のニュースに緊張感が高まって間もなく、国内の感染者が徐々に増え始めた。2月24日に政府によるイベント自粛要請が出された。本協会では、3月18日に定期総会を開催すべく準備を進めていたが、参加者が全国各地から集まるリスクに思慮し、一部役員の出席と委任状提出による変則的な形式での開催とした。

一般社団法人 日本庭園協会は、令和2年3月18日（水）東京・四ツ谷のビジネスセンター四谷において、午後1時から総会を開催した。

【全国評議員会】 本年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全国から集まる会員に配慮し、評議員会の開催は見送ることとした。

【総会】 午後1時。
司会＝廣瀬慶寛技術委員長

正会員　出席者5名（委任状出席296名）で定款第十九条により成立。加藤精一総務委員長の開会の辞、高橋康夫会長の挨拶の後、会長が議長席に着き、議事録作成者に加藤総務委員長、議事録署名人に小沼康子理事、坂井昌子評議員を指名、議事に入る。

○第一号議案「令和元年度事業報告、収支報告、会計監査報告の件」
本部事業報告＝加藤総務委員長
支部事業報告＝廣瀬技術委員長
決算報告＝加藤総務委員長
監査報告＝加藤総務委員長代読

1　現況（令和2年2月27日現在）
(1)事務所…〒169-0051
東京都新宿区西早稲田1-6-3
フェリオ西早稲田301号
電話…03（3204）0595
E-Mail　gsj20@m7.dion.ne.jp
URL http://nitteikyou.org/
(2)会員数（カッコ内の数字は前年比）
正会員500名（17減）
特別会員／名誉会長・会員9名（1減）
維持会員11社（増減無し）
学生会員2名（1増）
総会員数522名（17減）
(3)本部委員会および特別委員会、支部組織（カッコ内は委員長）
①本部委員会／総務委員会（加藤精一）財務委員会（加藤新一郎）広報委員会（柴田正文）鑑賞研究委員会（藤枝修子）技術委員会（廣瀬慶寛）国際活動委員会（三橋一夫）
②特別委員会／文化財指定庭園調査委員会（高橋康夫）日本庭園協会賞選考委員会（高橋康夫）日本庭園協会賞選考規定検討委員会（高橋良仁）日本庭園協会設立百周年記念事業委員会（高橋康夫）
③支部（カッコ内は支部長）／北海道南支部（桃井雅彦）宮城県支部（菊地正樹）栃木県支部（清水一樹）茨城県支部（飛田幸男）埼玉県支部（石井国義）千葉県支部（村田義雄）東京都支部（加藤精一）神奈川県支部（清水哲也）新潟県支部（若杉松男）石川県支部（向川茂）静岡県支部（石井敬明）愛知県支部（高見紀雄）近畿支部（山田拓広）岡山県支部（三宅秀俊）広島県支部（藤原忍）鳥取県支部（石亀靖）島根県支部（岡和生）山口県支部（殿井正敏）四国支部（越智将人）

2　事業の概要
【本部事業】
(1)**総務事業**　①全国支部長連絡協議会（1・27）②（一社）日本庭園協会定期総会（3・15）③常務理事会（1・27）（2・26）（4・25）（6・4）（7・4）（8・26）（10・8）（11・25）④理事会（2・26）（10・8）
(2)**広報事業**　①庭園協会ニュースの発行（第95～98号）②GSJミニニュースの発（No.69～75）
(3)**鑑賞研究事業**　①講演会（東京都支部共催）「日本庭園のもうひとつの見方―デザインする立場から、作庭者のおもいやかたちを紐解く」戸田芳樹氏（㈱）戸田芳樹風景計画代表取締役（11・24）②春の日帰り庭園見学会「千葉県成田～佐倉地区」（5・19）③秋の一泊庭園見学会（新潟県支部共催）「新潟地方への見学」（9・28～29）
(4)**技術事業**　①第11回庭園技術連

続基礎講座（全5回）／上野まゆみ氏・米山拓未氏　横浜市廣川邸（5・26）／菅谷輝男氏・野村光宏氏　新宿区中村邸（6・30）／磯守氏　八王子市永明院（7・28）／鈴木康幸氏　国立市本田家住宅、荒井邸（8・25）／佐藤偉仁氏・新　肇氏　浜離宮御鷹茶屋（9・29）②伝統庭園技塾　高木剪定（全4回）（4・5～7）（6・15～16）（9・20～22）（11・16～17）③静岡県支部・本部共催講座／講演会「作庭書と遠江地方の庭園について」生熊里佳氏氏、「わたしの庭造り」廣瀬慶寛氏／庭園見学会　摩訶耶寺（静岡県指定名勝）、大福寺（静岡県指定名勝）、龍潭寺（国指定名勝）（4・14～15）④現代日本庭園の巨匠たち講座（全2回）／「岩城亘太郎先生」龍居竹之介氏・岩城　隆氏（11・9）／見学「ホテルニューオータニ日本庭園」龍居竹之介氏・荒木淳良氏（12・7）⑤日比谷ガーデニングショー出展（10・19～23）
(5)**国際活動事業**　①国土交通省「海外日本庭園プロジェクト」／シカゴ・ジャクソンパーク内日本庭園修復事業の現地下見、材料手配、打合せ、現場確認　三橋一夫氏（4・10～14）／現地作業（滝石組、石敷園路、剪定、ワークショップ他）越智将人氏・高見紀雄氏・池田功氏・星宏海氏・三橋氏（6・12～20）／次年度協議　脇坂対策官（国交省）・緑化機構側担当者・高橋康夫氏・三橋氏（12・6）②ポートランド日本庭園セミナー講師派遣　曽根将郎氏（6・3～9）

【支部事業】
◆北海道南支部
(1)**会議の開催**　①支部総会・新年懇親会（1・14）②役員会（3・29）（11・28）
(2)**技術事業**　①石積講習会（5・12）②ロープワークでの高所作業講習会（10・30～31）
◆宮城県支部
(1)**技術事業**　①研修受入れ（英国キューガーデン）（3・18～21）②高木剪定講習会（4・5～7）（6・15～16）（9・20～22）（11・16～17）③庭園修繕作業（台風19号被害対応）（11・16～17）④庭園管理作業ボランティア受入れ（トヨタ自動車庭園整備）（6月）⑤庭園整備作業（6月～11月第1日曜日）
◆栃木県支部
　支部としての活動は無し
◆茨城県支部
(1)**会議の開催**　①新年会・研修打合せ（1・24）②支部総会（3・11）③役員会（4・26）
(2)**技術事業**　①県立歴史館竹垣他講習会（3・30～31）②視察研修「新潟県の庭」（6・9～10）
◆埼玉県支部
(1)**会議の開催**　①支部総会・新年会（1・27）②役員会（1・15）（2・13）（3・22）（5・8）（6・12）（7・19）（9・26）（12・10）
(2)**技術事業**　①研修会準備（9・6）（12・1）②研修会（6・29～30）（9・7～8）（11・10）③作品発表会（12・1）
◆千葉県支部
(1)**会議の開催**　①支部総会（5・11）②役員会（4・8）（4・25）（6・7）（7・3）（7・17）（8・21）（11・14）③親睦会（8・25）
(2)**技術事業**　①見学会準備（5・17）②見学会「旧安田庭園・江戸東京博物館」北村均氏（6・12）③モルタル造形実技講習会　野口朋照氏（造形デザイナー）（8・25～26）
◆東京都支部
(1)**会議の開催**　①幹事会（2・9）（3・4）②支部総会（4・21）③連続交歓講座実行委員会（2・9）（3・19）（5・26）（6・30）（7・28）（8・25）（9・30）（10・30）（11・15）④納会（11・22）

◆神奈川県支部
(1)**会議の開催**　①支部総会（2・3）②役員会（11・16）
(2)**技術事業**　①桂垣講習会準備（4・20～21）（5・17～19）（10・19）②蹲踞研修会　金綱重治氏（9・28～29）
◆新潟県支部
(1)**会議の開催**　①新年会（1・19）②支部総会（2・17）③役員会（1・9）（2・17）（3・22）（4・25）（5・17）（7・3）（7・26）（8・28）（9・17）（12・15）④納涼会（7・26）
(2)**技術事業**　①貞観園築山改修工事（5・16）②支部主催伝統庭園技術・高木剪定講習会（6・18～20）③貞観園技術研修会（6・26）④支部創立30周年記念事業（9・20～21）⑤鑑賞研究委員会共催・新潟見学会（9・28～29）⑥役員研修会（12・15～16）
◆石川県支部
(1)**技術事業**　①重量物運搬講習会（6・16）②アカマツ剪定・雪吊り講習会・井筒蓋三本締め講習会（10・20～21　台風19号被害のため中止）
◆静岡県支部
(1)**会議の開催**　支部総会（3・24）
(2)**技術事業**　①編笠門講習会32～39（1・13）（2・10）（3・24）（4・

◆**鳥取県支部**
(1)**会議の開催**　①支部総会（1・20）②役員会（5・13）
(2)**技術事業**　①版築講習会「安諸塾ＩＮ鳥取２０１９」（10・11～14）

◆**島根県支部**
(1)**会議の開催**　①支部総会（1・11）
(2)**技術事業**　①炭窯の屋根用茅刈り（1月下旬）②炭窯ワークショップ（3月）③土塀講習会（愛知県にて開催）に参加（9・6～9）④版築講習会（鳥取県支部主催）に参加（10・11～14）

◆**山口県支部**
(1)**会議の開催**　①幹事会（2月、3月、6月、9月）

◆**四国支部**
(1)**会議の開催**　①支部総会（3・16）②役員会（8・15）（9・1）（10・27）

続いて収支決算報告及び会計監査報告（8、9ページ参照）を加藤総務委員長が行った結果、全員異議なく了承し、第一号議案は可決した。

○第二号議案「令和２年度事業計画、予算説明」
組織方針＝加藤総務委員長
本部事業説明＝加藤総務委員長
支部事業説明＝廣瀬技術委員長
予算説明＝加藤総務委員長

令和２年度事業計画の概要

◆日本庭園協会組織方針

昨年、年号が令和となり今年は新しい時代の実質的な幕開けというべき年であり、新たな気持ちで事業展開を図っていくこととする。また、今年は7月24日から8月9日まで東京オリンピックが、そして8月25日から9月6日まで東京パラリンピックが開催され、海外から多くの来客が見込まれ、日本文化を代表する庭園にも注目が集まることになる。そこであらゆる機会に日本の庭園の魅力を伝える活動を積極的に展開していく。

当協会は、社会に対して「庭とは何か」を問い続けるとともに庭園の価値や素晴らしさを多くの方々に伝えることは大きな役割であり、さらに、庭園の伝統技術の保存及び新たな技術の開発に努めることを目指すなど、今日まで１００年以上の長きにわたり庭園、公園、園芸及び風致の研究、並びに普及などを目的として事業展開をしてきたが、今後も新しい時代にふさわしい庭園文化を提案していきたい。

1　会員の開拓

当協会の会員数はここ数年では５００名前後で推移しているが、庭園の魅力を多くの市民に伝えるためには会員増が必至であり、「会員一人が新会員一人」を目標に新たな会員を開拓する。

2　世代交代を目指す

時代の変化が激しい中、若手の登用を積極的に推進し、その感性により時代に適合した当協会の運営を目指す。

3　様々な団体との連携

（一社）日本造園組合連合会、（一社）日本造園建設業協会、国土交通省、環境省、都市緑化機構、各大学などと一層の連携を図り、緩やかな庭園及び造園大連合を目指す。また、建築やエクステリア等異業種との交流を積極的に推進し、作庭の創造コラボレーションを図る。

4　技術の温故知新

昭和を代表する巨匠たちの庭園観や作庭現場を再確認し、現代における庭の課題解決の手掛かりを探る。また、庭園技術連続基礎講座もより斬新な内容とし、日本を代表する技術、作庭手法を持つ当協会の先達が若い世代に確実に技術を伝える内容とする。

伝統庭園技塾については昨年度よりスタートした高木枝打ち剪定作業技術習得の講習会を充実させる。

5　最新情報を速やかに伝える

広報委員会は本部及び支部の最新情報を発信する。さらに新たな協会パンフレットを作成し、協会の存在を広く知らしめるとともに、会員の勧誘を積極的に行う。

6　市民に開かれた鑑賞会の実施

鑑賞研究委員会は庭園の素晴らしさを市民に伝える重要な役割を担っている。若い人の積極的な参加を働きかけるとともに市民に開かれた鑑賞会を推進するためより多くの機会を設ける。

7　庭園技術を世界に伝える

国際活動委員会は国土交通省の進める海外庭園の修復などに積極的に関わり、当協会の技術力を海外で発揮するとともに、次代を担う若手を育成する。

8　地域に根差した独自の支部活動を展開する

支部設立の目的は、当協会の事業展開を全国的な広がりにするため、それぞれの地域が独自の活動を行うことによって、庭園文化をさらに発展させるというものである。そこで、全国支部長協議会を支部と本部の交流の場と位置づけ、より緊密な事業展開を進める。各支部はそれぞれ独自の活動を行い、個性豊かな事業展開を図り、本部と一体となって地域に根差した活動を展開することとする。なお、全国展開を図るために唯一支部がない九州支部の設立を目指す。

【本部事業】
(1)**総務事業**
①毎月常務理事会を開催し、情報交換を密に実施　②年２回の理事会開催を確実に実施　③各委員会の委員については若手を積極的に登用するとともに、委員選出については委員長の推薦を受けて常務理事会で協議し、会長が委嘱することとする。なお、会長が認めた場合を除き委員の兼務は行わない　④支部との連携を図るため、全国支部長協議会に参加
(2)**広報事業**
①庭園協会ニュース 年４回（1月・4月・7月・10月）発行　②ＧＳＪミニニュース（全会員へのはがき通信）を発行。その他、各事業計画に即して随時発行　③ホームページを利用した広報活動を重点的に考える
(3)**鑑賞研究事業**
①鑑賞研究会のあり方検討会により、新しい鑑賞会を検討　②一般市民に向けた鑑賞会（年４回程度）　③技術委員会と連携の鑑賞会（初夏）　④四国方面の鑑賞会（秋季）　⑤国際活動委員会と連携の鑑賞会（海外の庭園）の検討
(4)**技術事業**
①第12回庭園技術連続基礎講座を開催 5月から9月最終日曜日（5・31）（6・28）（7・26）（8・30）（9・27）②伝統庭園技塾を開催 高木枝打ち剪定講習会（4・16～19）（10・15～18）③支部・本部共催講座を開催 愛知県支部、本部共催講座（9月予定）④現代日本庭園の巨匠たち講座　斎藤勝雄先生（4・25）（5・23）　飯田十基先生（9・26）（10・24）小形研三先生（未定）　⑤日比谷ガーデニングショー出展（10・17～21）
(5)**国際活動事業**
①在バングラデシュ日本国大使館の伊藤直樹大使（前シカゴ総領事）より、２０２２年の日本・バングラデシュ国交樹立50周年を記念して首都ダッカに日本庭園を作りたい旨の依頼（1・8）在バングラデシュ日本国大使館の進藤康治参事官と高橋会長が都内で面談し作庭に関しての打ち合わせ（1・28）②シカゴ・ジャクソンパーク、バングラデシュ、モスクワの各日本庭園の事業に対し、現地及び国土交通省、大使館と具体的な連絡を進める（3月）③ポートランド日本庭園財団主催「広島ピースフォーラム」に参加　（一社）日本庭園協会後援（5月）④シカゴジャクソンパーク　修復作業（6月）⑤ポートランド　インスティテュート・セミナーに講師派遣（8月）⑥北米日本庭園協会大会に参加(10月)
※バングラデシュ、モスクワの下見または作業については状況に応じ、時期及び人員を決定する予定

【支部事業】
◆**北海道南支部**
(1)**技術事業**　①石積講習会（4月）②ロープワーク高所作業講習会（高木剪定　伐採）(10月)

◆**宮城県支部**
(1)**技術事業**　①高木剪定講習会(4・16～19)（10・15～18）②庭造り講習会、講演会（1月～12月）③庭園整備作業（6月～11月 第1日曜日）

◆**栃木県支部**
(1)**会議の開催**　①支部総会（時期未定）
(2)**技術事業**　①本部主催見学会（古峯神社）への協力（6月頃）②見学会等（時期未定）

◆**茨城県支部**
(1)**会議の開催**　①支部総会（4月）②反省会・忘年会（12月）
(2)**技術事業**　①庭園見学会（4月、6月）

◆**埼玉県支部**
(1)**会議の開催**　①支部総会・新年会（1・19）

(2)技術事業　①さいたまアートアクション展参加（1・25）（会期　1・25～3・29）②さいたま国際芸術祭参加（会期　3・14～5・17）③研修会1～4（2・29～3・1）（3・8）（3月）（6月）④研修旅行（10月）⑤作品発表会（12月）

◆千葉県支部

(1)会議の開催　①支部総会（5・16）②役員会（1月上旬）（2月上旬）（3月上旬）（4月上旬）（6月上旬）（8月上旬）（10月上旬）（12月上旬）③親睦会（8月下旬）④その他、活動計画に合わせて必要な時総会・準備

(2)技術事業　①技術講習会（3月下旬）②庭園見学会（6月下旬）③第3回モルタル造形実技講習会 講師・野口朋照氏（造形デザイナー）（8月下旬）※新会員の加入を目指して活動※会員の希望により技能講習、ミニ研修会を開催

◆東京都支部

(1)会議の開催　①支部総会（4月）②連続交歓講座実行委員会（1・5）（1・22）（2・19）③幹事会・連続交歓講座反省会（3月）④納会（11月）

(2)技術事業　①第3回連続交歓講座（2・23）②第3回連続交歓講座DVD上映会（未定）※次回連続交歓講座を企画・日程未定※支部会員の提案・希望により研修会等検討

◆神奈川県支部

(1)会議の開催　①支部総会（2・2）②役員会（11月）

(2)技術事業　①桂垣講習会（竹穂準備）（2・15～16）②桂垣講習会（仕上げ）星 宏海氏（3・14～15）※土塀作成に伴う準備工予定（未定）

◆新潟県支部

(1)技術事業　①支部30周年記念誌制作②庭園見学会・県内、県外（未定）③伝統庭園技塾・貞観園（未定）

◆石川県支部

(1)会議の開催　①支部総会（2・9）

(2)技術事業　①研修旅行（6～7月頃）②アカマツ剪定・雪吊・井筒蓋三本締め講習会（9月中旬頃）

◆静岡県支部

(1)会議の開催　①支部総会（3・15）

(2)技術事業　①庭苑研修会（編笠門）（未定）　※要望により随時研修会開催

◆愛知県支部

(1)会議の開催　①支部総会（2・22）

(2)技術事業　①「第5回フラリエみらい花フェスタガーデンコンテスト」（4・16～19）①同コンテスト「#3人のボタニカルトークショウ」に出演　高見紀雄氏（4・16）②作庭施工勉強会（5月）③本部支部共催映画「FIVE SEASONS ガーデンオブピートアウドロフ」上映会（9月）

◆近畿支部

(1)会議の開催　①支部総会・役員会（4月初旬）

(2)技術事業　①見学研修会

◆岡山県支部

(1)会議の開催　①役員会（1・31）②支部総会（2・22）

(2)技術事業　①滋賀県庭園見学（2・22～23）

◆広島県支部

(1)会議の開催　①支部総会（3月初旬）

(2)技術事業　①見学会　五百羅漢（因島）、平山美術館（瀬戸田）、仙石庭園（東広島）など（1月）※上記ほか見学会、技術講習の開催予定

◆鳥取県支部

(1)会議の開催　①支部総会（2・1）

(2)技術事業　①石造物研修・京都（未定）※他支部との交流と情報交換

◆島根県支部

(1)会議の開催　①支部総会（1・5）

(2)技術事業　①炭窯の屋根用茅刈り（1・22）②台杉講習会・京都、嵯峨野（2・12～13）③石割講習会・島根県安来市（4月）

◆山口県支部

(1)会議の開催　①支部総会（6月）②幹事会（5月）（7月）（10月）③支部総忘年会（11月）

◆四国支部

(1)会議の開催　①支部総会（3月下旬）②役員会（未定）

(2)技術事業　①高木伐採講習会（3・6～8）②庭園見学会、講習会（未定）

以上事業計画報告に続いて、令和2年度収支予算の（9ページ参照）説明が行われた結果、満場異議なく了承され、第二号議案は可決された。

○第三号議案「役員改選の件」

趣旨説明＝高橋会長

今回の役員改選は、藤枝修子副会長、柴田正文常務理事、福田光子理事及び高梨節子監事退任に伴い、補充するものである。

新役員には常務理事　小沼康子氏、理事　坂井昌子氏・清水哲也氏、監事　小泉隆一氏、評議員　飯山良子氏・鈴木貴博氏・鈴木康幸氏・竹田利光氏・仲佐修二氏・米山拓未氏が推薦された。また、永年にわたり当協会の運営にご尽力いただいた藤枝修子氏・柴田正文氏・福田光子氏は名誉会員に推薦された。

以上の役員改選の件は、審議の結果、原案のとおり承認された。

○第四号議案「総会議決事項の委任の件」

趣旨説明＝高橋会長

第四号議案は、全員異議なく、承認された。常務理事会への委任が可決されたのは、次の事項である。

①令和2年度事業計画に関する件

②令和2年度収支予算の補正及び特別会計に関する件

令和2年度（一社）日本庭園協会定期総会は廣瀬技術委員長の閉会の辞により、無事終了した。

3 密を避け、マスク着用での総会のようす

役員一覧

2020 年度～ 2022 年度　☆印は新任　敬称略　五十音順

名誉会長	龍居 竹之介					
顧問	金子 直作	中村 一				
会長	高橋 康夫					
副会長	菊地 正樹					
常務理事	加藤 新一郎	加藤 精一	☆小沼 康子	廣瀬 慶寛		
理事	上野 周三	内田 均	☆坂井 昌子	☆清水 哲也		
	高橋 良仁	平井 孝幸	三橋 一夫	山田 拓広		
評議員	厚澤 秋成	尼﨑 博正	粟野 隆	☆飯山 良子	石井 国義	石井 敬明
	石亀 靖	石川 治壱	磯 守	岩崎 隆	越智 將人	落合 悟
	小野 登身	河西 力	菊地 正芳	北村 均	木下 照信	髙良 啓子
	小杉 忠広	古平 貞夫	後藤 幸雄	坂本 利男	清水 一樹	菅沼 孝仁
	☆鈴木 貴博	☆鈴木 康幸	曽根 将郎	高見 紀雄	☆竹田 利光	田中 節照
	田中 徳夫	殿井 正敏	飛田 幸男	豊藏 均	☆仲佐 修二	中根 史郎
	野村 光宏	福田 芳野	藤原 忍	星 宏海	本川 勇	水本 隆信
	三宅 秀俊	向川 茂	村田 義雄	望月 敬士	桃井 雅彦	横山 英悦
	☆米山 拓未	若杉 松男				
監事	☆小泉 隆一	中村 寛	野村 脩			
名誉会員	青木 美樹子	石川 昇造	大平 暁	加藤 雍太郎	☆柴田 正文	庄司 ヨシ
	内藤 操	☆福田 光子	☆藤枝 修子	前川 冨士子	柳 龍子	

本部委員会及び支部組織

本部委員会

総務委員会	委員長	加藤 精一	財務委員会	委員長	加藤 新一郎
広報委員会	委員長	☆小沼 康子	鑑賞研究委員会	委員長	高橋 康夫（兼）
技術委員会	委員長	廣瀬 慶寛	国際活動委員会	委員長	三橋 一夫

特別委員会

文化財指定庭園調査委員会　委員長	高橋 康夫
日本庭園協会賞選考委員会　委員長	高橋 康夫
日本庭園協会賞選考規定検討委員会　委員長	高橋 良仁
日本庭園協会百周年記念事業実行委員会　委員長	高橋 康夫

支　部

北海道南支部	支部長	桃井 雅彦	宮城県支部	支部長	菊地 正樹	栃木県支部	支部長	清水 一樹
茨城県支部	支部長	飛田 幸男	埼玉県支部	支部長	石井 国義	千葉県支部	支部長	村田 義雄
東京都支部	支部長	☆鈴木 康幸	神奈川県支部	支部長	☆米山 拓未	新潟県支部	支部長	若杉 松男
石川県支部	支部長	向川 茂	静岡県支部	支部長	石井 敬明	愛知県支部	支部長	高見 紀雄
近畿支部	支部長	山田 拓広	岡山県支部	支部長	三宅 秀俊	広島県支部	支部長	藤原 忍
鳥取県支部	支部長	石亀 靖	島根県支部	支部長	☆仲佐 修二	山口県支部	支部長	殿井 正敏
四国支部	支部長	越智 將人						

正味財産増減計算書

平成 31 年 1 月 1 日から令和元年 12 月 31 日まで　（単位：円）

科目		予算額	本年度決算額	増減
Ⅰ 一般正味財産増減の部				
1，経常増減の部				
（1）経常収益				
①入会金収入	入会金収入	185,000	125,000	60,000
②会費収入	受取会費	6,760,000	6,182,000	578,000
③事業収益	講座収入	525,000	690,000	△ 165,000
	鑑賞研究講演会	100,000	167,000	△ 67,000
	鑑賞研究見学会	1,500,000	751,200	748,800
	庭園協会賞講演会（総会）費	600,000	504,000	96,000
	受託事業費	3,300,000	4,977,299	△ 1,677,299
	伝法院研修参加費			
④雑収益	広告収入	50,000		
	受取利息	10,000	20	9,980
	雑収益	0	2,000	△ 2,000
	事業活動収入計	13,030,000	13,398,519	△ 368,519
（2）経常費用				
①事業費	広報委員会費	1,280,000	1,126,057	153,943
1-1	会報印刷費	520,000	452,254	67,746
	会報郵送料	660,000	573,803	86,197
	会報取材編集費	100,000	100,000	0
1-2	鑑賞研究委員会費	1,245,000	857,836	387,164
	鑑賞研究講演会費	45,000	127,370	△ 82,370
	鑑賞研究見学会	1,200,000	730,466	469,534
1-3	技術委員会費	836,000	1,013,389	△ 177,389
1-3-1	連続講座費	500,000	594,209	△ 94,209
	講師謝礼	180,000	180,000	0
	講師旅費交通費	40,000	63,000	△ 23,000
	事務・会場手伝い謝礼	75,000	75,000	0
	講座会場費	140,000	199,759	△ 59,759
	講座用事務・消耗品費	65,000	76,450	△ 11,450
1-3-2	地方講演会費	70,000	43,000	27,000
	講師謝礼	20,000	20,000	0
	講師旅費交通費	50,000	23,000	27,000
1-3-3	伝統庭園技塾	282,000	305,180	△ 23,180
	講師謝礼	120,000	224,500	△ 104,500
	講師旅費交通費	162,000	80,680	81,320
1-3-4	文化財指定庭園調査会費	76,000	71,000	5,000
	文化財指定庭園保護協議会年会費	20,000	15,000	5,000
	文庭協総会負担金	56,000	56,000	0
1-4	国際活動委員会費	1,435,000	3,182,234	△ 1,747,234
	本部会議時国際委員交通費補助	20,000	0	20,000
	NAJGA 年会費	65,000	39,019	25,981
	国際交流費	1,350,000	3,143,215	△ 1,793,215
1-5	文化財指定庭園調査・修復費	1,500,000	900,000	600,000
②管理費				
2-1	定期総会費	900,000	900,524	△ 524
	総会用事務・消耗品費	100,000	77,302	22,698
	庭園協会賞後援会費	800,000	823,222	△ 23,222
2-2	会議費	280,000	269,312	10,688
	会議用事務・消耗品費	10,000	8,146	1,854
	会場費	120,000	103,886	16,114
	役員交通費補助	150,000	157,280	△ 7,280
2-3	事務局職員給料	1,000,000	1,008,600	△ 8,600
2-4	事務局職員交通費	240,000	241,200	△ 1,200
2-5	ホームページ運営管理費	201,000	199,878	1,122
	ウェブサイト管理費	195,000	194,400	600
	サーバードメイン更新料	6,000	5,478	522
2-6	渉外慶弔祝賀費	200,000	110,000	90,000
	渉外費（関係団体賛助金）	60,000	80,000	△ 20,000
	慶弔費	60,000	0	60,000
	支部活動お祝い金	80,000	30,000	50,000
2-8	通信費	600,000	403,867	196,133
	郵便・配送費	500,000	276,506	223,494
	電話料	100,000	127,361	△ 27,361
2-9	事務用品・消耗品費	400,000	432,494	△ 32,494
2-10	宣伝広告費	110,000	118,800	△ 8,800
2-11	水道光熱費	55,000	52,807	2,193
2-12	賃借料	1,186,400	949,908	236,492
	事務所家賃	950,000	931,428	18,572
	コピー機リース料	220,000	18,480	201,520
2-13	銀行手数料等	120,000	83,837	36,163
2-14	会計事務所顧問料	100,000	118,800	△ 18,800
2-15	諸雑費	10,030	10,000	30
	百周年記念事業	2,466,396	446,076	2,020,320
経常費用計			12,425,619	
	当期経常増減額		972,900	
	当期一般正味財産増減額		972,900	
	一般正味財産期首残高		4,346,741	
	一般正味財産期末残高		5,319,641	
Ⅱ 正味財産期末残高			5,319,641	

令和２年度予算書

令和２年１月１日から令和２年 12 月 31 日まで　（単位：円）

科目		令和元年度実績	令和２年度予算額	備考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1，事業活動収入				
①入会金収入	入会金収入	125,000	150,000	
②会費収入	受取会費	6,182,000	6,200,000	
③事業収益	講座収入	690,000	720,000	
	鑑賞研究講演会	167,000	180,000	
	鑑賞研究見学会	751,200	900,000	
	庭園協会賞講演会費	504,000	500,000	
	受託事業費	4,977,299	3,300,000	・区画整理庭園調査事業 ・国際交流活動（海外日本庭園修復事業）
④雑収益	雑収益	20	20	
	事業活動収入計	13,396,519	11,950,020	
2，事業活動支出				
1 事業費支出				
1-1	広報委員会費		1,280,000	
	会報印刷費	452,254	520,000	
	会報郵送料	573,803	660,000	
	会報取材編集費	100,000	100,000	
1-2	鑑賞研究委員会費		450,000	
	鑑賞研究講演会費	127,370	50,000	
	鑑賞研究見学会	730,466	400,000	
1-3	技術委員会費			
1-3-1	講座費		646,000	
	講師謝礼	180,000	500,000	
	講師旅費交通費	63,000	180,000	
	事務・会場手伝い謝礼	75,000	40,000	
	講座会場費	199,759	75,000	
	講座用事務・消耗品費	76,450	140,000	
1-3-2	地方講演会費		65,000	
	講師謝礼	20,000	70,000	
	講師旅費交通費	23,000	20,000	
1-3-3	伝統庭園技塾		50,000	
	講師謝礼	224,500	76,000	
	講師旅費交通費	80,680	20,000	
1-3-4	文化財指定庭園調査会費		56,000	
	文化財指定庭園保護協議会年会費	15,000	85,000	
	文庭協総会負担金	56,000	20,000	
1-4	国際活動委員会費		65,000	
	NAJGA 年会費	39,019	1,500,000	
	国際交流費	3,143,215		海外日本庭園修復派遣
1-5	文化財指定庭園調査・修復費	900,000		区画整理庭園調査
2 管理費支出				
2-1	定期総会費	77,302	100,000	
	総会用事務・消耗品費	823,222	800,000	
	庭園協会賞講演会費用			
2-2	会議費	8,146	10,000	
	事務費	103,886	180,000	
	会場費	157,280	250,000	
	役員交通費補助			
2-3	事務局職員給料	1,008,600	1,000,000	
2-4	事務局職員交通費	241,200	240,000	
2-5	ホームページ運営管理費			
	ウェブサイト管理費	194,400	198,000	
	サーバードメイン更新料	5,478	6,000	
2-6	渉外慶弔祝賀費			
	渉外費（関係団体賛助金）	80,000	80,000	
	慶弔費	0	50,000	
	支部活動お祝い金	30,000	100,000	
2-8	通信費			
	郵便・配送費	276,506	300,000	
	電話料	127,361	130,000	
2-9	事務用品・消耗品費	432,494	500,000	
2-10	宣伝広告費	118,800	120,000	
2-11	水道光熱費	52,807	56,000	
2-12	賃借料			
	事務所家賃	931,428	1,022,000	
	コピー機リース料	18,480	184,800	
2-13	銀行手数料等	83,837	90,000	
2-14	会計事務所顧問料	118,800	80,000	
2-15	諸雑費	10,000	10,000	
百周年事業		446,076		
	式典記念講演製本		1,500,000	
	庭園学会誌復興庭園掲載号購入		20,000	
事業活動支出予算計			7,026,800	
当期収支差額			4,943,220	
前期繰越			5,319,641	
次期繰越			10,262,861	

令和元年度収支計算書

平成 31 年 1 月 1 日から令和元年 12 月 31 日まで　（単位：円）

科目		予算額	本年度決算額	増減
Ⅰ 事業活動収支の部				
1，事業活動収入				
入会金収入		1185,000	125,000	60,000
会費収入	受取会費	6,760,000	6,182,000	578,000
事業収益	講座収入	525,000	690,000	△ 165,000
	鑑賞研究講演会	100,000	167,000	△ 67,000
	鑑賞研究見学会	1,500,000	751,200	748,800
	庭園協会賞講演会費	600,000	504,000	96,000
	受託事業費	3,300,000	4,977,299	△ 1,677,299
雑収益	広告収入	50,000	0	
	受取利息	10,000	20	9,980
	雑収益	0	2,000	△ 2,000
事業活動収入計		13,030,000	13,398,519	△ 368,519
2，事業活動支出				
1 事業費支出				
1-1	広報委員会費	1,280,000	1,126,057	1,126,057
	会報印刷費	520,000	452,254	452,254
	会報郵送料	660,000	573,803	573,803
	会報取材編集費	100,000	100,000	100,000
1-2	鑑賞研究委員会費	1,245,000	857,836	857,836
	鑑賞研究講演会費	45,000	127,370	127,370
	鑑賞研究見学会	1,200,000	730,466	730,466
1-3	技術委員会費	928,000	1,013,389	1,013,389
1-3-1	講座費	500,000	594,209	594,209
	講師謝礼	180,000	180,000	180,000
	講師旅費交通費	40,000	63,000	63,000
	事務・会場手伝い謝礼	75,000	75,000	75,000
	講座会場費	140,000	199,759	199,759
	講座用事務・消耗品費	65,000	76,450	76,450
1-3-2	地方講演会費	70,000	43,000	43,000
	講師謝礼	20,000	20,000	20,000
	講師旅費交通費	50,000	23,000	23,000
1-3-3	伝統庭園技塾（仙台）	282,000	305,180	305,180
	講師謝礼	120,000	224,500	224,500
	講師旅費交通費	162,000	80,680	80,680
1-3-4	文化財指定庭園調査会費	76,000	71,000	71,000
	文化財指定庭園保護協議会年会費	20,000	15,000	15,000
	文庭協総会負担金	56,000	56,000	56,000
1-4	国際活動委員会費	1,415,000	3,182,234	3,182,234
	NAJGA 年会費	65,000	39,019	39,019
	国際交流費	1,350,000	3,143,215	3,143,215
1-5	文化財指定庭園調査・修復費	1,500,000	900,000	900,000
②管理費支出				
2-1	定期総会費	900,000	900,524	△ 524
	総会用事務・消耗品費	100,000	77,302	22,698
	庭園協会賞講演会費用	800,000	823,222	△ 23,222
2-2	会議費	257,000	269,312	△ 12,312
	事務費	10,000	8,146	1,854
	会場費	120,000	103,886	16,114
	役員交通費補助	150,000	157,280	△ 7,280
2-3	事務局職員給料	1,000,000	1,008,600	△ 8,600
2-4	事務局職員交通費	240,000	241,200	△ 1,200
2-5	ホームページ運営管理費	201,000	199,878	1,122
	ウェブサイト管理費	195,000	194,400	600
	サーバードメイン更新料	6,000	5,478	522
2-6	渉外慶弔祝賀費	200,000	110,000	90,000
	渉外費（関係団体賛助金）	60,000	80,000	△ 20,000
	慶弔費	60,000	0	60,000
	支部活動お祝い金	80,000	30,000	50,000
2-8	通信費	600,000	403,867	196,133
	郵便・配送費	500,000	276,506	223,494
	電話料	100,000	127,361	△ 27,361
2-9	事務用品・消耗品費	400,000	432,494	△ 32,494
2-10	宣伝広告費	110,000	118,800	△ 8,800
2-11	水道光熱費	55,000	52,807	2,193
2-12	賃借料	1,170,000	949,908	220,092
	事務所家賃	950,000	931,428	18,572
	コピー機リース料	220,000	18,480	201,520
2-13	銀行手数料等	120,000	83,837	36,163
2-14	会計事務所顧問料	100,000	118,800	100,000
2-15	諸雑費	10,030	10,000	30
百周年事業		2,466,396	446,076	2,020,320
経常費用計		14,197,426	12,425,619	1,771,807
	当期経常増減額		972,900	
	当期収支差額		972,900	
	前期繰越収支差		4,346,741	
	次繰越収支差額		5,319,641	

収支計算書に対する注記

1．資金の範囲

資金の範囲には、現金及び預金、未収会費、立替金及び未払金、前受会費、仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記２．に記載するとおりである。

2．次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳　（単位：円）

科目	前期末残高	当期末残高
現金及び預金	4,346,741	5,319,641
合計	4,346,741	5,319,641
未払金	0	0
源泉所得税預り金	0	0
震災復興庭園寄付預り金	0	0
仮受金	0	0
合計	0	0
次期繰越収支差額	4,346,741	5,319,641

貸借対照表

令和元年 12 月 31 日現在　（単位：円）

科目	金額	科目	金額
Ⅰ 資産の部		Ⅱ 負債の部	
1．流動資産		1．流動負債	
現金	0	流動負債合計	0
普通預金（みずほ）	1,922,666	負債合計	0
振替貯金	3,271,136		
通常貯金（ぱるる）	125,839		
定期預金	0		
		Ⅲ 正味財産の部	
		1．一般正味財産	5,319,641
		正味財産合計	5,319,641
資産合計	5,319,641	負債及び正味財産合計	5,319,641

財産目録

令和元年 12 月 31 日現在　（単位：円）

科目	金額
Ⅰ 資産の部	
1．流動資産	
現金預金	
現金手許有高	0
普通預金　みずほ銀行　口座番号　1716382	1,741,661
普通預金　みずほ銀行　口座番号　1159951	1,000
普通預金　みずほ銀行　口座番号　1159943	180,005
振替貯金　ゆうちょ銀行 #00140-4-665089	121,110
振替貯金　ゆうちょ銀行 #00110-5-76081	3,150,026
通常貯金　ゆうちょ銀行 #00110-5-76081	125,839
定期預金　みずほ銀行	0
資産合計	5,319,641
Ⅱ 負債の部	
1．流動負債	
負債合計	0
Ⅲ 正味財産	5,319,641

監査報告書

下記監事 3 名は、一般社団法人日本庭園協会において、会長の提出した 2019 年度における会務の執行を総括した会費収入の「事業活動支出」の内訳並びに「収支決算書」「正味財産増減計算書」「貸借対照表及び財産目録」等につき監査した。

監査の結果、会務の執行は当該協会の定款に基づき誠実に行なわれており、正確に処理されていることをみとめます。

令和２年　２月　18 日

一般社団法人　日本庭園協会
監事　野村 脩／同　髙梨 節子／同　中村 寛

国際活動委員会

シカゴ・ジャクソンパーク内日本庭園修復

三橋 一夫

1　海外日本庭園再生プロジェクトの概要

現在、海外にある日本庭園は500箇所以上を数えるが、十分に維持管理されている庭園は多くはない。こうした荒れた庭園を再生し、日本文化をより活発に伝える拠点にしようと、国土交通省（以降国交省）は外務省と連携して2017（平成29）年度から「海外日本庭園再生プロジェクト」を立ち上げた。

在外公館を通じ、修復・指導を望む日本庭園を募集したところ多数の応募があった。本プロジェクトは、その中から相手国側の協力体制や庭園の維持体制が整っており、修復効果が高いものについて、日本の造園業関係団体から技術者を派遣し、現地の技術者とともに修復を行い、加えて講習会や管理マニュアルなどによりその適切な維持管理を図るというもので、5年間で50箇所程度の修復支援を目標としている。

2017年度はモデル事業として、アメリカとルーマニアの庭園2箇所を選び、2団体を派遣して修復作業を実施した。

2年目の2018（平成30）年度はその門戸を姉妹都市にも広げ、3箇国、6箇所の庭園が対象となった。その中に（一社）日本庭園協会（以降、当協会）が担当することとなるシカゴ・ジャクソンパーク内日本庭園も含まれている。修復対象となった理由は、在シカゴ総領事館の伊藤直樹総領事の強い希望があったと聞いている。

因みに、3年目の2019（令和元）年度はアメリカを中心に4箇国、8箇所の日本庭園の修復支援が実施された。

2　シカゴ・ジャクソンパーク内日本庭園の概要

この庭園の歴史は、1893（明治26）年、シカゴで開催された万国博覧会に日本政府が平等院鳳凰堂を模した木造建築のパビリオン「鳳凰殿」を寄贈したことに始まる。1934（大正9）年に同地で2回目の万博が開催された時に日本庭園が造られた。当時は鳳凰堂の前に庭園があり、想像するだに立派な風景であったことと思う。この庭は鳳凰堂に因み「フェニックス・ガーデン」とも呼ばれ、先の大戦中も市民に大切にされてきたが、戦後間もない1946（昭和21）年に焼失し、庭園は荒廃した。

1978（昭和53）年から1981（昭和56）年にかけシカゴ公園局により大規模な改修が行われ、池の拡張、滝口の整備、橋と四阿の新築が行われた。また、2013（平成25）年以降、園内に170本の桜が植えられ、2016（平成28）年にはオノ・ヨーコ氏によるオブジェ「スカイランディング」が設置され、新たな名所となっている。ところで、この作品は鳳凰が天空から地上に舞い降りたイメージ、とのことで、焼失した鳳凰堂跡地に作られている。

本庭園は、1993（平成5）年のシカゴ市と大阪市の姉妹都市締結20周年の一環として、大阪市が修復に協力したことを契機に「大阪ガーデン」とも呼ばれている。

3　当協会事業の概要

（1）経緯

当協会には、2018（平成30）年4月に国交省より参加協力の要請があり、ジャクソンパーク内日本庭園を担当することになった。それにはポートランド日本庭園ガーデン・キュレターの内山貞文氏より強い後押しがあった。

（2）事前調査

その後、国交省、都市緑化機構の担当者と打合せを重ねて、2018年7月に3日間の予定で事前調査を実施した。調査内容は、現地の状況と要望などのヒアリングであった。

現地には日本から国交省の脇坂隆一国際緑地環境対策官、当協会から筆者、アメリカ国内からはシカゴ公園局文化資源部マネジャーのマイク・デミトリフ氏、管理マネジャーのカレン・スジャカ氏、ポートランド日本庭園の内山氏、後援者のロバート・カー氏、工事業者クラウス社のブライアン社長、領事館から加藤俊久領事の面々が集まり、どこをどう修復したいか、また今後、庭をどう発展させたいかを討論し、その結果を当協会が図面化することになり、筆者が担当した。

この事業を引き受ける条件として、一年きりで、4、5人が行って庭園の一部を修復しても意味がないので少なくとも数年続けて現地の管理体制が作れるようワークショップや一緒に作業しながら継続性のある事業としたいと提案した。国交省の方針としては一庭一年の計画であるとしつつも、提案は受け入れられ、初年度は調査と設計にあて、2年目に実施作業を行うこととした。その後はシカゴ側と当協会が直接契約を結び事業を続けながら管理、指導体制を作る。このように継続した協同作業システムを互いに作っていくことに当協会が関わるという提案が認められた。

（3）実施体制と内容

翌2019（令和元）年、実施作業の時期は、現地の気象データを加味して6月と決定した。

以前から当協会では海外活動に参加してくれる会員を各支部に呼びかけていた。これほど早くその機会が来るとはと思いながら早めにシカゴチームの人選を始めた。

今回の海外活動への参加呼びかけに応えていただいた越智將人氏（四国支部）、高見紀雄氏（愛知県支部）、池田功氏（東京都支部）、星宏海氏（海外活動委員）と筆者を入れて計5名のチームを編成した。これに加え平成30年度文化庁新進芸術家海外研修制度でポートランド日本庭園に派遣されていた細野達哉氏（東京都出身）が参加を申し出てこられ、仲間として共に活動することになった。

実施作業に先立ち4月に下見打合せを行った。海外で活動する際、下見は不可欠である。施工する場所、材料、搬入の手順、重機や道具の手配、作業段取りの確認など、現地の関係者と綿密な打合せをすることが必要である。前述の件と6月の実施作業迄に撤去すべき植木や石、ホテルから現場までの送迎、食事の手配に至るまで綿密かつ具体的に決めていった。下見打合せの出席者はシカゴ公園局から2人、加藤領事、工事会社から社長と現場責任者、大阪市建設局（一部資金提供）から2人と筆者、計8人であった。

このような経緯を経て6月12日から19日まで、実働6日の活動が実現の運びとなった。作業の内容については協会ニュース第98号で報告しているのでここでは省略する。4日目の夕刻、領事館でのレセプションに関係者全員が招待され、伊藤総領事から今回の修復作業のお礼と今後も期待しているとのご挨拶があり、誇らしいディナーを楽しんだ。

伊藤総領事からの依頼で各人が庭への想いを語ったレセプション

（4）シカゴ公園局からの感謝状

帰国後、思いがけずシカゴ公園局から当協会と参加者全員に感謝状が届いた。当協会の作業成果、剪定指導、ワークショップに対する高い評価への証と受け止めた。今年もメンバーを代えて実施する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。そこで、今年の作業としては、関係者に連絡を取りながら修正実施図面を描くこととし、次回に備えている。

4　2020（令和2）年度の予定

本年度に修復支援を実施する日本庭園は、アメリカ、ブラジル、イギリスなど6箇国、9箇所が選定された。当協会は国交省からモスクワ市のロシア科学アカデミー中央植物園の日本庭園（造園家中島健設計）の修復依頼を受けている。現在は、新型コロナ収束の状況待ちで、今年は担当者とメールで修復依頼部分の指導を進め、行ける時に備え、関係者の共有情報としていきたいと考えている。

5　その後の展開

シカゴの伊藤総領事は、当協会のプロジェクトが終わって間もなくバングラデシュの大使に就任された。日本とバングラデシュは2022（令和4）年に国交樹立50周年を迎え、その記念にバングラデシュ政府は国内初の日本庭園の実現を強く要望しており、当協会にその設計と施工の依頼が伊藤大使より寄せられた。縁はつながるものだと思い、本年、現地下見を予定していたが、今のところ延期となっている。本件もチームを作って対応する予定にしている。

6　世界の新型コロナウイルス感染の影響

新型コロナ騒動は庭園にとって国内は勿論、海外においても影響が大きい。ポートランド日本庭園の例では、従業員は数名の幹部を残して一時全員解雇され、3月から閉園した。6月半ばに再開され、スタッフの大半は復職した、という状態であった。このコロナ禍によって様々に人生が変わらざるを得なかったと言える。

海外での活動は今迄の地道な行動の積み重ねと皆さんの協力のお蔭と感謝している。これからも機会があれば積極的な参加を期待している。

（理事　国際活動委員長）

シカゴ公園局からの感謝状

参考資料・国交省HP、外務省HP

一般社団法人 日本庭園協会 創立百周年記念講演会

2018（平成30）年10月21日（日）
緑と水の市民カレッジ講義室

『日本庭園の未来　100年後を夢見て』

粟野 隆（東京農業大学准教授）

【粟野 隆 氏 プロフィール】
造園史家、東京農業大学准教授。1976年兵庫県生まれ。東京農業大学大学院農学研究科農学専攻博士課程修了。独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所にて考古遺跡の発掘調査や保存整備、歴史的庭園の調査研究に従事。専門は造園史および文化財保存計画。2017年日本造園学会賞（研究論文部門）受賞。著書に『近代造園史 Modern Landscape Architecture』（2018）など。

はじめに

この度は日本庭園協会創立100周年誠におめでとうございます。私もこの機会に立ち会え、一造園人として光栄です。

今日は「日本庭園の未来　100年後の日本庭園について」という難題を高橋康夫会長からいただきました。100年経ったらここにいる皆さんはほとんどいません。そういう意味では私の妄想を聞いていただきます。

当協会の初代世話人で東京の公園の育ての親である井下清先生が、1928年発行の機関誌「庭園」に「100年後に公園は無くなる」というエッセイを書いています。「100年後は人間が自然生活を実現して公園は無くても暮らしていける世の中になっている。無線電話や無線記録器、描字器が発明され、放送電動器による過密樹、刈草の管理もできるようになっている。腐植質ガスによる肥料化が進んで草花や風致樹の育成が進展している。50歳の平均寿命は2028年に80歳となっている」。2018年の今、携帯電話やスマートフォン、パソコンも発明され、平均寿命も80代を超え、人生100歳時代になっているので、井下先生の予言が当たっています。

それを踏まえて、皆さんに問いかけをします。「今から100年後の2118年に日本庭園はあるのか、それとも無いのか」。

日本庭園に限らず世界各地には様々なスタイルの庭園がつくられてきました。ヨーロッパには、フランスのベルサイユ宮殿に代表される整形幾何学式庭園、アジアでは中国の頤和園のような当時の皇帝が権力を使って造営した非常に広大な庭園、韓国の自然風景そのものに美を見出した庭園。そして日本では、龍安寺の石庭のように白砂を海に、石を海中に浮かぶ島に見立てたり、風景を縮小して表現したりするという独特な様式と認識をされてきたわけです。

今日のお話では、日本庭園の未来を考えるにあたってのいくつかのキーワードを最初に掲げておきます。日本庭園の未来とは何なんだろうか。①日本庭園が生まれてきた背景にある理想、②日本庭園としての様式、空間、意匠、③日本庭園の使い方、利用、活用について考える。

まずは日本庭園の歩みをたどってみます。今から100年前に当協会が創立されました。そして当時の先人たちが、未来の日本庭園にどんなことを考えていたのか。これら2つを踏まえて100年後の2118年に向かって私達で考えてみたいことをお話ししたいと思います。

日本庭園のあゆみ

最初に、飛鳥・奈良時代から近代までの庭園の歩みを説明します。

日本の庭園の特徴は、外来の思想を日本的に改めて独自の様式に生み出していったことです。7～8世紀の中国や韓国が日本の庭園に及ぼした影響は多大でした。蘇我馬子が西暦588年に飛鳥寺を造営して仏教を導入しようとしたことがそのスタートです。古代朝鮮の中でも百済の国から建築や建築装飾、瓦の製造、天井に絵を描く画家などの専門家や指導者を起用し、飛鳥寺を完成させました。

文献に日本の庭園が初めて出てくるのは日本書紀です。推古天皇が即位して20年目の612年、百済の渡来人が捕まって処刑される時に命乞いをした際の「私は庭園をつくる才能がある。だから私を殺さないでください」という記載です。飛鳥時代の小墾田宮（おはりだのみや）という宮廷の南側に庭をつくらせたらそれが非常に良かった。その人は「路子工（みちこのたくみ）」と言われるようになりました。

その路子工の育った百済では、四岸という四角形の池が数多くつくら

れていたようです。代表的な古代寺院である定林寺では、真ん中に橋を架けた四角形の池があります。

今の日本庭園の池庭は非常に緩やかにカーブする曲線の汀線をもったイメージですが、飛鳥時代につくられた庭園には、百済の庭園と非常に酷似した人工的な四角形の池がありました。奈良県明日香村の石神（いしがみ）遺跡で見つかった庭園の遺構は、全く同じ四角形の池になっています。

8世紀になると都は奈良の平城京に遷ります。ここでは中国、唐の長安城を模倣した庭がつくられました。平城京の都城は、真ん中に羅城門が開いてまっすぐな朱雀大路がメインストリートとして通り、一番北側に平城宮という天皇が政治をするところをつくっています。ここで大事なのは、平城宮の北側には松林苑（しょうりんえん）という大きな庭園があり、そこには水上池（みなかみいけ）という池があったことです。そして平城京の東南過ぎの部分には、五徳池（ごとくいけ）という人工的な池がありました。実は中国の長安城にも曲江池（きょくこうち）という人工的な池があり、平城京と同じなのです。奈良時代には、州浜をもつ庭園がたくさん見つかっていますが、そもそも中国の文化、庭園文化をそのまま導入したものだったということです。今も残る平城宮の佐紀池（さきいけ）（図1）は、平城宮の北側に営まれた苑池の痕跡であると発掘調査で確認されています。

しかし8世紀後半になると、これまで韓国や中国の庭園文化を直接的に模倣してきた我が国は、それを日本的な庭園で表現しようとするようになります。具体的な事例は、国の特別名勝にも指定されている平城宮の東院庭園です。今我々が日本庭園として認識するような非常に豪快な石組を見ることができたりします。また、平安時代以降、特に貴族の庭園文化にも直結する遣水の遺構等も発掘調査で見つかっています。その地域地域の風土に伴って日本化されていく傾向が見えるわけです。池の形も精妙に屈曲する護岸をもったり、中島を浮かべたり、庭園と一体化するように建物を建てたり、日本風の庭園というものがようやくこの時代に出てきたのです。つまり、外来の思想や外来の庭園が日本化されていったということです。

図1　奈良平城京佐紀池

平安時代後期には、浄土式庭園が非常によく発達しました。平泉の毛越寺や無量光院、宇治の平等院庭園、また源頼朝が戦で亡くなった兵士を弔うためにつくった鎌倉の永福寺（ようふくじ）庭園なども浄土式庭園の重要な遺構です。

この浄土式庭園という様式は、平安時代を中心に広まった浄土思想によるものです。そもそもその思想は中国から朝鮮半島を経由して日本に伝わった浄土変の考え方が基本になっています。例えば、釈迦如来や阿弥陀如来、弥勒菩薩、薬師如来が舞楽段（ぶらくだん）という人工的につくった段の上に祀られ、その下には蓮の池がある。その池の中に舞楽段という段をつくって、その背後には様々な信仰の対象を描いた。これが朝鮮を経由して日本にやってきた浄土変の思想です。この浄土変の考え方を映し描いたものが浄土変相図と言われています。これが真実の極楽浄土のモチーフとして日本に伝わるわけです。

池の真ん中に島をつくり、橋を架けて拝むということは中国でもありましたが、人工的な池の形が中国から日本に伝わった頃には、例えば宇治の平等院庭園のように州浜を持つ緩やかな汀線に改造されていたりします。つまり、中国からやってきた外来思想が日本風に解釈されて、日本の庭園の様式となっていったということです。

鎌倉時代は、禅の庭がたくさんつくられるようになります。例えば、夢窓国師などの禅僧には、石を立てることが修行の一環であり、特に石組が発達していった。この禅という思想も中国からやってきました。

そして鎌倉時代の建築も禅修養の建築として非常に中国的なものがつくられていった。最初に禅院の考え方を導入したのは蘭渓道隆と言われています。様々な禅の堂宇が一直線上に並ぶのは、南宋五山の禅院の考え方と共通するところですが、背面に庭をつくる、池（水溜り）をつくるというのは南宋五山の禅院の中ではあまり行われなかったようです。建長寺の建物の背面に池と庭園がつくられた背景というのはよく分かりませんが、日本風にアレンジされてつくられたのか、あるいは中国の径山寺や金山寺というお寺の影響を受けたのか。背面に庭園をつくるというのは特に日本で発達した禅の庭の

考え方だったと思います。

禅とともに中国から伝わったのが抹茶です。栄西という禅僧が宋から帰国してしばらくたった1214年に、二日酔いに悩んでいた源実朝に茶を献じたという文献があります。

この茶の文化は室町時代になって、例えば足利義政は東山殿（今の銀閣寺）で、様々な阿弥坊をもつ同胞衆に茶会のプロデュースをさせて遊興的なお茶会を開きました。お茶を飲んでどこのお茶か産地を特定する闘茶という遊びを行ったり、あるいは様々な道具を集めて道具の優劣を競うような茶の湯を展開していったわけです。義政は、18畳という非常に広い広間で茶会を開きました。

その後、書院でお茶を飲むことをやめて、18畳の広間の茶を1／4の4畳半に縮めて侘び茶を大成しようとしたのが千利休でした。茶室に至る屋外空間に「露地」という言葉をあてて、茶事の庭を確立したのみならず、日本庭園の意匠にも多大なる影響を及ぼした人物です。

もともと、お茶室のための庭というものは、「武野紹鷗の四畳半の茶室の脇に坪之内の絵がある」という記述が『山上宗二記』にあり、小さなスペースが露地に発展していったのです。

利休が関わったとされる1590年代の茶室の露地が京都の妙喜庵の待庵に現存しています。飛石や蹲踞、灯籠など、以前の日本庭園にはなかったものが使われています。

飛石は、西芳寺の洪隠山を歩いているときに雨が降ってきて、その雨で道が洗われてごつごつと岩の塊が地上に露出していた様子をみて着想しました。また蹲踞は、義政が茶会のときにお茶水の石組からこんこんと湧き出る水を使って茶を点てたことから着想しました。灯籠は、京都の鳥辺野で灯籠の残り火を見てこれを手水の鉢明りに用いるのは乙であろうという着想から、利休が庭園の中に用いるようになったのです。

私が言いたいのは、中国からやってきた抹茶の文化を日本風にアレンジして露地という空間を利休がつくったということです。すべて日本庭園は外来の思想から成り立っている可能性を考えておく必要があります。

江戸時代の日本は鎖国をしていました。しかし、安政年間には、アメリカ・ロシア・イギリス・フランス・オランダと5カ国条約を交わして開国をし、ヨーロッパの文化が明治期以降にはたくさん入ってくるようになりました。その中で、岩倉具視の使節団が外国に行って様々な文化を見聞してきます。欧米のパークの考え方が日本に導入されたりすることと同時に、これまでの日本庭園にも洋風の要素をもった庭園がつくられるようになります。明治初期の外国人居留地には、石組や灯籠、手水などはありますが、どことなく洋風のイメージが漂う庭がつくられています。

ヨーロッパの伝統的な庭のつくり方を日本的に昇華させた一人には小平義近がいます。彼は芝生の庭を非常にたくさんつくりました。針ヶ谷鐘吉先生が書いているエッセイの記事をみますと、「小平義近氏のとった手法は従来の日本庭園で常套的に用いられた飛石、石組、灯籠を一切捨て去って、その代わりに緩やかな芝生の間を心地よいカーブを描いて走る曲線園路を設け、芝生の諸処に丸型刈込物を配して苑路の効果を高めたものである」と言っています。すなわち、それはかの築地ホテルの庭園（図2）に見られるような幼稚で折衷式の完成された型であり、フランス風景式を日本化したとも考えられる様式です。つまり、外国から様々な思想がやってきて日本で発達していくわけですけれども、日本独特の感性で日本化したものではないかと思っています。

図2　築地ホテル館庭園（築地居留地、1868年完成）

七代目小川治兵衛（植治）も明治時代中期以降に自然主義といわれるような庭をたくさんつくった近代の造園家として著名です。渓流のような流れがあったり、広大な芝生を活用した庭（図3）をつくったりしました。植治に関しては故鈴木博之先生らが、イギリスのカントリージェントルマンにあるような思想を導入してこのような芝生を基調とした庭をつくったのではないかと指摘されています。

図3　山縣有朋の導きによって確立された小川治兵衛の作風

以上、日本庭園の歩みをまとめますと、①日本庭園は時代時代の先進的な思想を導入して形成されてきたこと、②それが日本の風土になじむ形で日本化されてきたことに意味がある。これが最初の話で私が言いたかったことです。

庭園協会の先人たちの日本庭園の未来へのまなざし

それでは二つ目の話に移ります。

日本庭園協会をつくった先人たちの具体的な話ですが、彼らが日本庭園の未来についてどんなふうに思っていたのかについて話を進めます。

1918（大正7）年12月、今から100年前に当協会は発足しました。当時の世話人は、上原敬二、本多静六、本郷高徳、龍居松之助、後藤朝太郎、黒田鵬心、田村剛、井下清、中島卯三郎、保岡勝也、戸野琢磨、椎原兵市、伊東忠太、相川要一、古宇田實という方々です。

現在私は41歳ですが、当時の年齢をみてみますと、本郷と保岡と同世代です。上原先生は29歳、田村先生は28歳、戸野先生に至っては27歳ということで非常に若いメンバーが当協会をつくったのです。彼らが庭園の将来についてどんなことを思っていたのか、戦前の機関誌で調べました。

要約すると、まず、龍居先生は「外来思想を受けつつも日本趣味に戻る。大事なものは、日本の気候風土というものが庭園をある形につくり上げる」とおっしゃっておられました。田村先生は「私は日本庭園を万国に通用するものとしたい。日本庭園の過去の栄誉に溺れてはいけない」とおっしゃっておられました。そして上原先生は「時代精神を認識せよ。時代が人をつくり、人が時代をつくる。時代を代表する庭園というものをよく考えて造園活動をすべきだ」と言っておられたと理解しています。

これより、100年前から今日に至る迄、日本庭園はどのように位置付けが変わっているのかを確認して、私の持論、視点を披露します。

未来（100年後、2118年）に向かって今、私たちで考えてみたいこと

日本庭園というものは、古代から中世あるいは近代に至る迄、外来思想を日本的にアレンジして独特の庭園というものを生み出してきたと思います。けれども、特に近代以降は外国につくられた日本庭園というものが非常に多くなりました。博覧会に伴う日本庭園の作庭であるとか、あるいはポートランド日本庭園などは、現代の日本庭園を代表するものだと思います。そういったものは、外来思想を輸入して日本化されたのではなく、日本庭園が日本を飛び出して外国につくられるようになったということなのです。

海外の日本庭園は、アジアやアメリカ、ヨーロッパなどで、既に560庭園程度が公開されていることが確認でき、国としては100カ国以上になっています。

2016年頃から、外国にある日本庭園の再生プロジェクトの取り組みが進められています。この状況を整理してみますと、日本庭園は、日本という国でつくられていたのですが、それが今日に至っては数々の外国に広がっているということです。むしろ「日本庭園」と呼ぶよりも「ジャパニーズガーデン」と呼んだ方が世界的には意味が通じやすいのではないでしょうか。

古代は朝鮮や中国、近代に至ってはヨーロッパなどの様々な外来の文化が日本に伝わってきて、そこでアレンジしたものが日本庭園でしたけれども、現代に至ってはそれぞれの国に日本庭園が輸出され、アメリカではアメリカの風土に基づいて形が変わり、ヨーロッパではヨーロッパの風土に基づいて形が変わっているのではないかと思うのです。つまり、その地域地域の気候風土や各地の人々の自意識によって庭園というものは姿形を変えていくのではないかということです。

ここでちょっと大胆なことを申し上げます。過去は外来思想が日本化されました。現在は日本庭園の国際化が進んでいます。それが「ジャパニーズガーデン」だと言いましたが、未来は「日本庭園」、「ジャパニーズガーデン」がさらに促進されて、「Jガーデン」というふうになると思っています。

例えば、日本の奈良・平安時代は宮廷音楽が発達して、中世に至っては猿楽や田楽、近世に至っては能楽が発達して、音楽はどんどん進化、多様化してきたわけです。現代では、ポピュラーミュージックというものが日本の人達の社会の中に深く浸透していると思います。言い換えれば、

古代は天皇や貴族のための庭園だったり、あるいは中世・近世は武将や大名、近代に至っては皇室や皇族、政治家・実業家など、ある限られた方たちが時代を代表する庭園を持っていたわけです。

けれども、現代は一般人であるとか、あるいは世界の人々にポピュラーミュージックのような形で時代を代表する庭園というものをつくっていくべきではないか、それをJポップにあやかって「Jガーデン」と私は名付けたわけです。

これも目新しい考え方ではなく、既に韓国の東国大学校の造園のホンカンピョウ先生は「Kポップ」にあやかって「Kガーデン」というものを世界に広めておられます。

私も二番煎じで100年後の日本庭園は様々な形でその地域地域で独自に発達していくのではないか、ということと同時に限られた利用者層から開かれた利用者層に変革されていくということで、「Jガーデン」というものに変わっていくのではないか、というふうに思いました。

例えば、庭園の中で結婚式をしたり、あるいは芸術の場として利用したりとかは既に現在においても行われていることです。学校教育の中や社会貢献の中でも日本庭園が使われています。外国でつくられた庭園が様々な利用者層に愛されて、そしてその地域の思想あるいは風土に基づいて変化をしていく。日本庭園ではなくなって「Jガーデン」として姿形を変えていくのではないかと考えているわけです。文化財庭園においても今後一層活用が促進されて、一般の利用者層に広まっていくと思います。

それでは、100年後の包括的な日本庭園、私はこれを「Jガーデン」というふうに呼びましたが、いったいどういうもので構成されていくのか、どういう仕組みで将来に繋げるのか、私見を述べます。

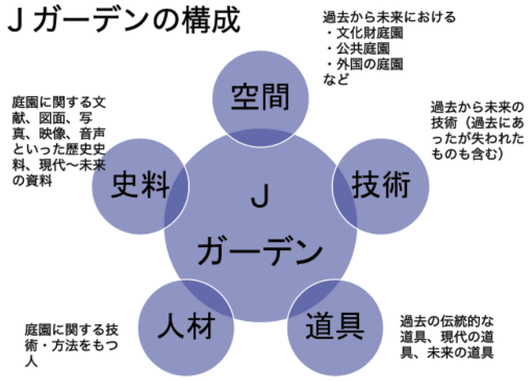


図４　「Jガーデン」の構成

「Jガーデン」の構成（図4）は、過去から現在、そして未来につくられる空間、文化財庭園だったり、外国の庭園だったりすると思います。そして、庭をつくるための技術ですが、過去からあった技術あるいは現在ある技術、未来につくられる技術です。それから道具ですが、過去の伝統的な道具から、今使っている道具、あるいは未来に開発されるべき道具。そして庭園に関する技術方法を持つ人材。庭園に関する図面、文献、写真、映像、音声などといった歴史的な資料から未来に生まれてくる歴史資料です。思想というのも包括しているのだと思います。そういったものが各庭園、「Jガーデン」というものを構成しているのだと思います。

これらの庭園をさらにパワーアップする仕組みは何かということですが、これは『日本庭園協会百周年記念誌』にも書きましたが、私は日本庭園博物館をつくった方が良いと思います。その考え方はさらに進んで、博物館という仕組はもちろん、それを総合的に世界中の「Jガーデン」を繋ぐネットワーク化することができれば、各庭園の力をもっと生かすことができるようになるのではないかと思うようになりました。日本庭園博物館をつくろうという構想

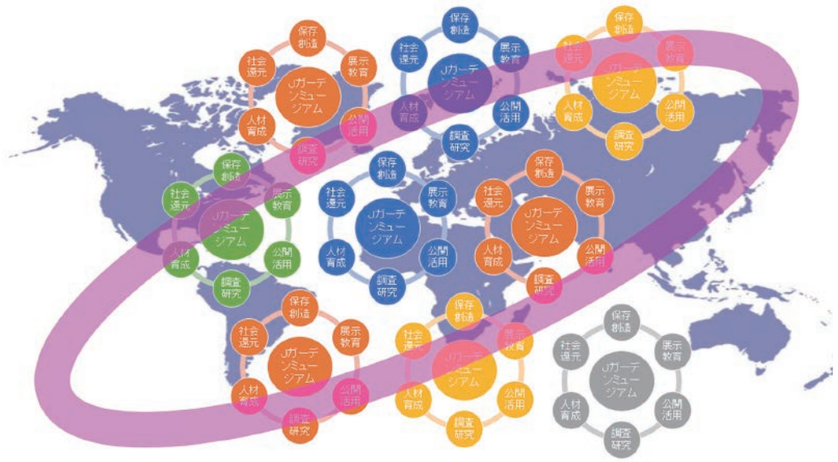


図５「Jガーデンミュージアム」

から「Jガーデンミュージアム」というものをつくろうと、最近そんなふうな思いを特に強くしているところです。

100年後の未来に向かって考えたい、考えておくべきだろうという観点の一例としては、新しい庭をつくったり創造したりする行為や、庭園を教育のために展示したり、普及啓発する行為、あるいはさまざまな方法で公開してその価値を社会に還元することがある。

それから、学校で造園を教えることは100年後には無くなるのではないかと思っています。学校で造園を勉強するのではなく、個々の庭園、「Jガーデンミュージアム」で人材を育成して、そこのスタッフ達が調査や研究を進めるようになると思うのです（図5）。そういうふうな仕組を博物館という制度を使ってできるのではないかということを提案しておきたい。

様々な国に日本庭園がつくられ、あるいはジャパニーズガーデンがつくられ、100年経てばそれはさらに地域の風土に伴って姿を変えていって、ジャパニーズガーデンと呼ぶよりも「Jガーデン」と呼んだ方がいい時代が来るのではないかと思っています。

それで個々の地域にある様々な庭園を博物館という仕組で繋いでいくことができれば、1300年前から今日に続くまでのいわゆる日本庭園というものをさらにパワーアップすることができるのではないかとそんな理想を描いたりしています。

結論です。再び井下先生の「100年後に公園は無くなる」という今から90年前の1928年に書かれたエッセイですけれども、100年後の未来、日本庭園はあるのか、それとも無いのか、いわゆる日本庭園というのが重要なのかどうなのか分かりませんけれども、この質問を皆さんに提出して私の話を終わりにしたいと思います。

（東京農業大学准教授・評議員）

粟野隆氏講演会のようす

『日本庭園の世界展開』

スティーブ・ブルーム（ポートランド日本庭園ＣＥＯ）

日本の外から見た日本庭園について、私の見解をお話しいたします。日本庭園の歴史ですとか、過去・現在にわたって日本庭園をどのように見てきたかについてお話しいたします。

より幅広い見方をしていただいて、日本庭園の役割がここ日本だけではなく、世界においてどんな役割を果たしていくべきかということを一緒に考えましょう。私の話の後、新しい対話が持たれれば幸いです。日本の庭園というのが将来どんな意味合いを持っていくか、世界に向けて考えていっていただけるようにしたいと思います。

日本庭園の海外輸出

過去に目を向けてみましょう。日本の外から見ると、日本の庭園は、もともと何百年も前にお寺や神社との関係でつくられてきた富裕層のプライベートな庭でした。それらが進化しているものを現代の日本でみることができます。しかし、日本の外側では違った目的でつくられてきました。

日本の庭園が海外に紹介された目的は二つあります。一つは、1800年代後半に、日本が世界に目を向けて開かれていった時期です。万国博覧会などがヨーロッパや北米で行われ、日本はそこに代表を送り、パビリオンや茶室などをつくり、そして庭園もつくって、日本の文化などのデモンストレーションをしたわけです。そして、日本に訪れたことのない人に、日本を紹介しま

【スティーブ・ブルーム氏プロフィール】
アメリカ・ニューヨーク州出身。2008～09年、外交問題評議会と日立製作所の提携フェローシッププログラムに選抜されて滞日、東京農業大学に客員研究員として迎えられた。フェローシップ終了後、北米日本庭園協会（ＮＡＪＧＡ）の設立に尽力し、初代理事長を務めた。その後2005年、ポートランド日本庭園ＣＥＯ就任以来、当園を日本国外で最大規模を誇るダイナミックな日本文化発信機関に成長させた。現在、さまざまな活動を通じ、庭園の役割の見直しと発展を進め、日本庭園文化の国際的な地位構築に大きく貢献している。

した。それらのほとんどは一時的なもので、展示会が終われば、そのパビリオンも茶室も撤去されましたが、そのうちのいくつかは残りました。また、別の場所へ移設されたものもあります。フィラデルフィアにある松風荘というのが一番典型的な例だと思います。ここは1800年代につくられたもので今日まで残っており、パブリック・ジャパニーズガーデンとして紹介された第一号です。灯籠などの資材を持って行って、時間をかけて計画して、今とは違ったやりかたで日本文化を紹介したわけです。

次の波がきたのは第二次世界大戦後です。戦後20年ほどは何も起こりませんでした。日本はやっと復興へ歩みだしたところで、世界中が同様にとても困難な時代でした。

それから40年くらい経って、何百もの日本庭園が海外で作庭されていきました。北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、そして現在は、中国をはじめとしたアジア地域、そしてウクライナなどと、第三の波が来ていると思います。それは将来の役割を担っていくと思います。

姉妹都市の日本庭園

今日は、ポートランドを日本庭園の代表例として紹介します。これは日本の外でつくられた日本庭園の中では典型で、戦後に発足された姉妹都市の友好の証として作庭されたものだからです。

1959年にポートランドと札幌の間に姉妹都市提携が結ばれました。これをどのように認識し、関係性を保っていこうかということで、日本庭園をつくったらどうかと提案した人がいましたが、その時はまだ機が熟しませんでした。

1961年、当時の皇太子殿下・妃殿下がオレゴンをご訪問なされた時、オレゴンの人々は、新たな日本との関係に湧きたちました。当時のポートランド市長のテリー・シュランク氏は、この機会を活かそうと理事会を設置し、日本庭園をつくることを決めました。その中で、地域の人たちの意志でコミュニティ理事会を設置しました。行政が中心になるのではなく、その町の人たちがコミュニティのメンバーになりました。税金でまかなうのではなく、寄付を募ったのです。今でもポートランド日本庭園は、一般入園料、会員会費など個人からの募金で成り立っています。

1963年、戸野琢磨氏（コーネル大学出身・東京農業大学教授）の設計により庭園はオープンしました（一般公開は1967年）。戸野氏は大学で教鞭をとる職務のために、一年に一度しかポートランドを訪れることができなかった。そこで、氏のマスタープランを実行し、完成後も日本式のやり方で維持していくために、若い庭師を指名し、ポートランドへ派遣しました。その第一号が平欣也氏です。平氏は、その後、北米に住まわれましたが、現在は退職し東京に戻っていらっしゃいます。

平氏は英語をほとんど話さず、庭をつくるための単語がわかる程度でしたが、ガーデンディレクターとしてとても重要な人でした。

彼を含めて、8人の歴代ガーデンディレクターたちが美しい庭園の維持・管理、そして発展に携わりました。現在は、内山貞文氏が9人目のガーデンディレクターとしてデザインに携わっています。コミュニティとのリレーションシップや継続性のあり方を考える中で、庭園は著しく成長しました。

今では、多くの北米の人たちが、私どもの庭園を伝統的な様式を保つ本物の日本庭園として認識していると思います。ポートランド日本庭園は、姉妹都市関係から派生した庭園として初めてのものですが、その後、北米では125箇所もの日本庭園がつくられました。姉妹都市の一環としてつくられたものが多いのですが、ポートランドのようにNPOや民間の協力を得てメンテナンス・修復などの手入れが行き届いているものは非常に少ないと思います。ほかの北米の日本庭園の中で、行政の支援を受けていたものは、予算カットの際には修復作業もできず衰退していきました。

海外の日本庭園の課題

北米の多くの日本庭園は、日本人によってつくられたわけではなく、また、修復作業も日本人の手によって行われなかったのです。その結果、この10年間、各地の日本庭園ではデザインの保持や修復がずさんになり、伝統的なデザインや古文化が廃れてしまったように見受けられます。

日本国内でも、日本庭園はお寺や神社や富裕層によってつくられることが多いですが、修復などの費用がかさんだり、相続税などの税金を払えないオーナーが、不動産屋などに庭園を売却したりする状況があります。

庭園を長期間どうやって維持していくかということは、日本でもアメリカでも同じ問題を抱えていると思います。日本には専門技術があります。アメリカは運営や日本庭園の活用についても課題があると思います。

将来的にはこのような課題点を協力して解決していけたらと思っています。日本の若年労働者の数は少なくなっています。ガーデナーや造園の専門家・デザイナーなどもだんだん少なくなっているのが現実です。このような問題に日本はもちろん、こうした専門家の数がもともと少ない日本以外のところも、どうやって専門知識の共有を図ることができるのか、修復や維持・活動をどうやって進めることができるのかというのが課題だと思います。

ポートランドでの取り組み

ポートランド日本庭園は、運営や維持管理に関して多くの庭園の模範的な例だと思います。建築家の隈研吾氏やデザイナーの内山貞文氏などの協力を得ることができ、非常にユニークな公共の庭として存在していると思います。近年の施設拡張プロジェクトで新しい設備、新しい庭、日本文化センターなどを加えました。そこでは、単に庭園だけではなくて、日本の文化紹介も提供しており、日本国外では一番大きな日本文化センターの一つと言えるでしょう。

この日本庭園の一年間の来園者は50万人です。会員数は現在1万8千人いて、会費を払っていただいています。フルタイムのスタッフが125人に、ボランティアが400人います。ボランティアの方々には、アートの展覧会のアテンドや庭園のガイドや庭の修復作業などを手伝っていただいています。また、庭の維持・修復に対する年間予算にも余裕をもたせて充実を図っています。日本国内外の庭園とその将来について対話を続けていくことができます。

私は、この10年間、日本庭園のコミュニティについての情報を集めました。誰が何をしているのか、そしてそのコミュニティがどういうものなのか、いろいろな意見を聞くことができました。また、日本にはどういった庭園があるのかというようなことを学習してきました。北米以外の日本庭園を学習することは、私にとって新鮮なことでした。このような経験を持つ人は、アメリカには多くはいません。また、こうした交流を公表している人も少ないです。個人レベルでこうした交流をしている人はいるかもしれませんが、その数は少ないのです。従って、名園の維持・管理の問題点について、話し合える場、ネットワークが今までありませんでした。

しかし、日本庭園協会の三橋一夫氏やケン・ブラウン氏（カリフォルニア州立大学教授）がネットワークをつくりはじめていて、どうやって対話を重ねていけばいいのかを教えてくれました。

そこで、私は、北米に戻って、「北米日本庭園協会（ノースアメリカ・ジャパニーズガーデン・アソシエーション　NAJGA）」を設立させました。200箇所以上の庭園が、一つのアソシエーションとして情報発信や知識などを共有することができ、また日本庭園協会とのネットワークを結ぶことにより、日米の交流が可能となり、確かな手ごたえを感じています。日本とアメリカが協力することで、課題の取り組み方などについて対話が始まったのです。

トレーニングセンターの開設

私のもう一つの取り組みは、ポートランド日本庭園内に、新しいトレーニングセンター（国際日本庭園文化・技術研究所）をつくったことです。そこでは、造園、メンテナンス、修復などの教育を行っているのですが、将来的には日本の庭師以外の指導者によるガーデナーのトレーニングを考えなければならないと思います。

日本の伝統は、たとえば親から子へ、親方から弟子へ、何年間も仕事を見て覚えて伝承されてきました。しかし、アメリカではもっと短期的にトレーニングしていくのです。ですから、アメリカでどうやって伝統を次世代に伝えていくのか、日本以外の世界の中に伝えていくのかを考えています。

日本庭園のスキルを得るために、4年間日本の大学で学ぶことも考えられますが、そんなことができる人はあまりいないでしょう。

そこで、北米日本庭園協会、日本庭園学会、日本庭園協会らと協力してトレーニングセンターを開設したのです。今は、3年間のトレーニングプログラムを始めたところです。京都やその他日本の各地から庭師を北米に招いて、短期間で集中したトレーニングを行っています。まだ発展途上ですが、ある程度成功していると思います。

最初のステップとして何がわかったかというと、その需要が多いとい

うことです。過去3年間、すべてのセミナーは定員に達しています。20人以下の小クラス制で、受講生と講師とのかかわりを大切にしながら行っていますが、前回の参加者はアメリカだけでなく、イギリスやコスタリカなどの5カ国から来ていました。現在、海外で日本庭園のニーズが非常にあります。意欲があり、学びたいという人が多数いることがわかりました。ですから、将来を見据えて、トレーニングセンターの運営を続けていきたいと思っています。

日本庭園の文化的活用

もう一つ、将来、ポートランドでやっていきたいことは、日本庭園をより広く活用していくことです。単に景観や自然を楽しませる場所としてだけでなく、もっと提供できるものがあると思うのです。日本庭園もアートです。他のアートと影響しあうことができると思います。例えば、生け花や茶道、盆栽とか、そういったものとお互いに関係を持って対話の中で高めていくことができます。対話することによって、日本庭園について知らない人もいろいろな形で関わることができますし、自分に関係づけることもできます。日本庭園を芸術作品としてとらえるので庭園は、アートを教えるプラットフォームとして活用され始めています。非常に、複合的な文化との関わり方をしています。工芸、あるいは食べ物、舞台などもそうです。

歌舞伎公演の実現

私の夢の一つは、日本庭園という「舞台」で歌舞伎をやることでした。訪日し、歌舞伎の興行元である松竹株式会社の社長にこのアイディアについてお話したところ、「それはおかしい。クレージーじゃないか」と言われました。しかし、私は粘りまして、最終的には同意していただき、一年半前、新施設のオープニング時に実現しました。非常に素晴らしかったです。歌舞伎のパフォーマンスには舞台の枠組みがとても重要だということで、歌舞伎のスタッフが早めにポートランド入りし、テントを組みました。3日後、役者が到着。彼らは、ポートランドへはもちろん、アメリカにも来るのが初めてでしたが、庭園を見て驚いていました。アメリカのオレゴンに、こんな日本庭園があるなんて信じられないという面持ちでした。そして役者たちは、庭園を背景に歌舞伎をしたいと希望し、テントを外してくれと私に言ってきたのです。テントを外し、美しい庭を背景に使うことができたのです。屋外公演の経験はあったとのことですが、日本庭園との協同で行うことは初めてで、庭を背景に演ずるのも初めての試みだったということです。松竹は、初めは躊躇していたにもかかわらず、この成功後は、毎年やりたいと言っていただきました。それは、このやり方が歌舞伎役者にも影響を与えたということだと思います。お互いに影響を与えるというのはとても重要だと思います。

庭園はユニバーサルなテーマ

もう一つ、もっと大きなコンセプトを話したいと思います。日本庭園はただ来園するだけの場所ではなく、また芸術とかシアターとして使うだけではなくて、もっと違うやり方で、日本の文化や庭園が重要なことを世界に知らしめるためのとても重要なツールにもなると思うのです。

庭園というのは、ユニバーサルなテーマだと思います。芸術、音楽についても言えますが、どの人も自然に対してつながりを持っています。そして元来日本には非常に素晴らしい自然と人とのつながりが根付いていました。自然を神としていました。それは世界中になかったと思うのです。

日本庭園は、自分の心の中での平和、そして世界平和をもとにつくられていると思います。第二次世界大戦後の世界は、日本をよく理解するためにこうした庭園を役立ててきました。また、静寂、自然とのつながり、そして心や魂などを癒すこと、このようなことを世界中の人たちに伝えてきたと思います。

ポートランドの庭園では、年間50万人の人たちが来園して様々な経験をしていますが、日本庭園は、ユニバーサルなテーマを伝えるとても重要な手段となっています。

初代ディレクター・平欣也（ひらきんや）氏

次に、平欣也氏についてお話します。平氏は1964年にポートランド日本庭園の初代ガーデンディレクターとして渡米しました。戦後20年、未だ戦争の傷跡が残っている時代は、今とは非常に状況が違っていました。建築作業をはじめると、ポートランドの人たちの抗議デモなどが起こったのです。日本人なんかコミュニティに入れるな、日本はまだ敵だ、という意識があったのです。平氏は、足を刺されたり、追い剝ぎにあったり、トラックに「日本に帰れ。お前が私たちの家族を殺した」と落書きをされたりしました。それでも平氏は日本庭園を完成させました。その後、ロスアンゼルスにデザイン会社を設立。フランク・シナトラやトニー・ベネットのようなビバリーヒルズのスターたちの庭園を手がけられました。

長い間ポートランド日本庭園の施工に関わってきた8人のガーデンディレクターとは継続的なつながりがなかったのですが、私は、彼らを一堂に集めたいと考えました。しかし、過去の経験から平氏は、二度とポートランドには戻らないと心に誓っていて、参加に同意いただけませんでしたが、娘さんなどを通じて彼のつくった庭園がどのように維持されているのかを見せたいと説得して、来てもらったのです。

ガーデンディレクターの集いでは、いろいろなプログラムを提供しました。ガーデナーと一緒に、どうしてこのような場所をつくったのか、この庭園の歴史はどういうものなのか、ということを検証しました。また、ボランティアも一日3回、7日間のガーデンツアーを提供して応援してくれました。

そして、ポートランド市立美術館で開催したパネルディスカッションには、何千人もの人たちが集まりま す。開園当初から25年間は、ガーデンディレクターを置いていました。13年前に私がこの日本庭園に関わるようになった時、組織全体を見渡したところ、設計やメンテナンスの意思決定をしているのは、理事会でした。しかし、理事たちのみがものごとを決めるべきではないのかもしれないということに気づきました。そこで、内山貞文氏にはガーデンディレクターではなく、日本庭園を違った見方をしてもらうための「キュレーター」として庭園全体の監修をお願いしました。アートにはキュレーターが必要です。プランの選定、デザインやパーツの方向性、石の形の決定などは、すべてキュレーターの役割です。そして、その決定が他のことに大きく影響してくるわけです。現在、北米の多くの日本庭園では、ガーデンキュレーターを配置するようになりました。

キュレーターとは、人々にアートとしての日本庭園だけでなく、日本とは何なのかということも教えることに注目します。つまり、日本庭園が土台となり、プラットフォームになって日本のことをいろいろ教えることができます。植物や花だけではなく、たとえば文化・芸術、食文化や人物について、それらをすべて教えるために、もう一人、文化のためのキュレーターを設置しました。その役割は、ガーデンを使ってポートランド、オレゴンの人たち、あるいは世界中からの旅行者に、日本について教えることです。

文化プログラムの開催

では具体的に何ができるか。日本の文化は、自然との特別な結びつきとか、独特なものがあります。お祭りや季節の催しものなど、いろんなことが日本で行われています。お盆ですとか、お花見ですとか。お月見の行事は日本ではもうあまり行われていないようですが、ポートランド日本庭園では、庭園を活用して「お月見」など季節の催しもします。そういった経験を共有することにより日本文化を教え、伝えています。

ポートランド日本庭園では、年間360の文化プログラムを催しています。庭の中で歌舞伎をやるとか、能の舞台をつくったり、写真展をしたり、教育プログラム、トレーニングセンターがあったり。日本庭園をそういったもののプラットフォームとして活用することによって日本を紹介しています。

アートを展示する場所としては二つ考えられます。博物館と美術館です。壁に絵を掛けたり、部屋の真ん中に彫刻を置いたりするだけでは動きがなく、場所の特性との関連は薄れがちです。しかし、同じ彫刻を庭に置いてみる。そして庭を背景として使ってみる。パビリオンの障子を開けると枯山水がある。そういう環境が私たちの庭園にはあります。アートと自然との結びつきを体現できるわけです。例えば、陶芸家金子潤氏（米国ネブラスカ州在住）のガラス細工を美しい針葉樹の木立の中に置いて、人工的に作られたものと自然のものとがお互いに調和するところを見せることができます。

それから庭園も違った見方ができます。アートを庭園に置くということに対して、日本では見たことがないと反対した人もいましたが、この庭はアートを愛している人のものでもあるのです。実際に展示会をやってみたら、その反対していた人から、「とても良かった」と感想を聞きました。その人は、庭園内にアート作品を見るまで、30年間庭園へ通っていたが、展示会を通してガーデンの違った顔に気付いたそうです。この方と庭園の関係がアートを囲むことによって変わったのです。

このように、北米やヨーロッパの

した。また、この8人のガーデンディレクターを祝う晩餐会には５００人もの人たちが集まりました。50年前、石を投げたり、「日本に帰れ」と平氏を野次り、日本を敵視していた人々も、今は日本を愛し、平氏を温かく迎え入れてくれました。

日本庭園を活用した交流

現在、アメリカ国内には約１５０の公共日本庭園が存在しています。そのインパクトを考えてみてください。コミュニティの人たちは、素晴らしい庭園だと意識せずに受け入れているのです。それが日本庭園の力でもあるわけです。どうやってそれができたのでしょうか。

私たちの庭園には、こういう物語、歴史や経験があります。それでは、これをどうやって、他の世界中のコミュニティにつなげていったら良いのでしょうか。例を挙げてみます。

今、イギリスのロンドンでは、この10年間、イスラム過激派のテロリズムが起きています。地下鉄に爆弾が仕掛けられたり、道の真ん中で銃撃戦があったりしています。例えばロンドンに行って、影響力がある人に、ガーデンコミュニティについて話したらどうでしょう。イスラムのペルシャ式ガーデンなどをロンドンの中に築いたらどうだろう。そうしたら、やってきた人が、イスラムを理解するきっかけになるかもしれません。そして、宗教ではなく、アートとして、文化として、そのデザインを自然に見る。そして、ポートランド日本庭園のたどった歴史のことを、少し話してもいいと思います。日本庭園をヨーロッパや南アフリカにつくったように、ロンドンにイスラム庭園をつくったらどうでしょうか。そうしたら、お互いのことをよりよく理解できるかもしれない。そして、より良い世界が築けるかもしれない。

１９６３年にオレゴンのポートランドにできたたった一つの庭園がきっかけとなり、世界中に何百にも増え、そしてお互いのことをより良く理解するために役立っているのです。そういうふうに私は考えるようになってきています。

つまり、日本庭園を活用して、更なる交流を図っていくこと。庭園のメンテナンスにだれがお金を出すのか、同じような問題を私たちは抱えています。

国際的なつながりをより大きく

今、この世界で、自分達が行なっていることの意義を考えなければなりません。ユネスコに対しても、我々がインパクトを与えなくてはなりません。また私たちが毎日やっていることを通して、世界の人々を一つにまとめて、非常に重要な考え方を共有することができると思います。これは意義のある活動ですが、メンテナンスのスケジュールなど日々の仕事に追われてしまいがちです。

でも、日本庭園協会の高橋康夫会長はじめ、三橋一夫氏や山田拓広氏らの素晴らしいリーダーの方たちと、このような幅広い国際的なつながりを持てて、私は深く感謝しています。内山氏も、太平洋のどちら側のことも良くわかっている非常にユニークな同僚です。彼が素晴らしいキュレーターとして、一緒に活動してくれて本当に良かったと思っています。皆さん、一人一人それぞれの仕事があると思いますが、より大きなビジョンも考えていただきたいと思います。

10年前に東京のお寿司屋さんで三橋氏と、「こんなこと、ちょっとクレージーな考え方かもしれないよね、時間かかるよね、難しいよね」と話したことが、すべて10年後には実現しているのです。それは、この日本庭園協会とのコラボレーションの賜物と言えます。

今年は、日本庭園協会の創立百周年です。先人が行ったように、将来に向かって今までとは違う見方をしていただけると、素晴らしい未来が待っていると思います。

ご清聴ありがとうございました。

（特別名誉会員）

ポートランド日本庭園・カルチュラルビレッジ　by Gary Belinsky

新役員紹介

新常務理事

小沼（こぬま）　康子（やすこ）　東京都出身

国内外の庭園をめぐる動きを意識しながら、本協会の活動を中心に会員の皆様にとって有益な情報の発信に努めます。さらに会員相互の交流の場となり、各々の活躍が見える「庭園協会ニュース」を目指します。忌憚のないご意見を歓迎します。

（広報委員長）

新理事

坂井（さかい）　昌子（まさこ）　愛媛県生まれ東京都育ち

コロナ騒ぎの合間にふと目にした日本庭園が、私の心を癒してくれました。これからの数年、その活動のお手伝いができればと、大切なお役目を引き受けさせていただきました。日本国内のみならず海外にもその素晴らしさを広げていきたいです。

清水（しみず）　哲也（てつや）　神奈川県小田原市出身

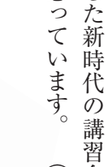
日本庭園協会には20代に入会し、色々と勉強させていただきました。本協会で教わった知識や技術は後世に伝えていくつもりです。今後は、本協会に恩返しができるよう自分に何ができるのか模索しつつご協力できればと思っております。

新監事

小泉（こいずみ）　隆一（りゅういち）　福島県田村市出身

東北の山は、落葉樹が多いせいで春から初夏にかけての新緑の季節は、一気に山々がまさに冬の季節から目覚めたように、木々の緑が鮮やかになってゆきます。田植が済んだ水田は水鏡のようになり、瑞穂の美しさ、たくましさを体感しつつ、微力ながら協会の事業の一助となればと思っております。

新評議員

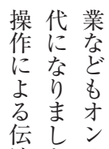


飯山（いいやま）　良子（よしこ）　東京都渋谷区出身

飯田十基邸の近くに住み、小形研三氏に設計していただいた我が家のお庭を愛でながら過ごしてきた40数年、協会にご縁を感じます。日本庭園の素晴らしさを広く世間の皆様に伝えていきたいと思います。

鈴木（すずき）　貴博（たかひろ）　東京都出身

健康を維持する薬用植物や食料となる植物を栽培するという庭の原点をどのように取り入れられるか日々の暮らしで実験のように楽しんでいます。また、土壌や岩石から含有金属やミネラルを吸収する植物と菌類の共生関係や植物個々の能力をさらに活用した庭が造れたらと考えています。

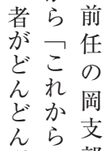


鈴木（すずき）　康幸（やすゆき）　東京都国立市出身

コロナ禍で時代の変化が加速しています。今、庭文化を世に広めるチャンスだと思い、発信していくつもりです。（東京都支部長）

竹田（たけだ）　利光（としみつ）　宮城県出身

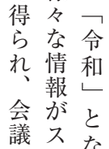
20数年前、何もわからない僕を仲間に入れていただいて本当に感謝しています。いろいろな経験をさせていただき　生涯の親友にも出会えました。まだまだ足りない僕ですが、次世代につなげられるようがんばります。



仲佐（なかさ）　修二（しゅうじ）　島根県安来市出身

前任の岡支部長から「これからは若い者がどんどん引っ張っていった方がいい」と推薦されました。地方から若い新しい風を吹かせていけるよう務めていきます。

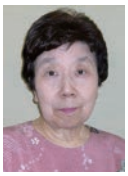
（島根県支部長）



米山（よねやま）　拓未（たくみ）　神奈川県横浜市出身

「令和」となり、様々な情報がスマホで得られ、会議や授業などもオンラインで進められる時代になりました。しかし、庭は遠隔操作による伝達や形式のみではつくれるものではなく、職人同士の口伝による所が大きく、素材の手触りなど肌で、五感で感じることが大切です。若い世代の会員が多い神奈川県支部として、ＩＴとアナログの融合した新時代の講習会を開催したいと思っています。（神奈川県支部長）

新名誉会員



藤枝（ふじえだ）修子（しゅうこ）　兵庫県神戸市出身

故西村章子先輩に誘われ、当時の鑑賞研究部に入会しました。桜楓会（日本女子大学同窓会）創立１００周年時の理事長の任期明けでした。これからは、気持ちと時間の余裕をもって、庭園の鑑賞研究を楽しみたいと思っています。

柴田（しばた）正文（まさふみ）　福岡県出身

価値観の見直しのきっかけになるのではとの思いから企画した日経ホールでの第３回連続交歓講座は奇跡的なタイミングで開催できました。新型コロナウイルス感染拡大で各自が何を大切に生きていくべきかを考えさせられます。

福田（ふくだ）光子（みつこ）　岡山県出身

新しい肩書をいただき、新鮮な気持ちでおります。東日本大震災復興記念庭園が、延数千人のボランティアによって築かれたことに衝撃を受けました。改めて「庭の力」を考えて行きたいと思います。

本部委員会からのお知らせ

●広報委員会からのお願い

新型コロナウイルス感染拡大は、全国に広がり、未だに先の見えない状況が続きます。会員の多くが携わる造園関連業界において、さまざまな影響を受けています。

広報委員会では、コロナ禍における会員の動きを把握し、今後の対策のヒントとすべく、協会ニュースに掲載することにしました。そこで、各支部長宛に、近々アンケート調査票をメール又はファックスで送信いたします。①支部事業への影響、②支部会員の仕事への影響、③このような状況下、どうすべきか？④協会への要望などについて、会員の現状や意見を取りまとめて、ご回答をお願いいたします。

●鑑賞研究委員会事業についてのアンケート調査にご協力のお願い

鑑賞研究委員会では、日本庭園の魅力をより多くの市民に知っていただくとともに、庭園文化を発展させることを目的に事業展開を図っております。一般市民との交流を深め、日本庭園協会の活動を伝え、大切な日本の庭園文化を支える会員を増やしていきたいと思います。

そこで、今後の活動の活性化のために広く会員の皆様方のご意見をうかがい、活動の中に反映させたく、アンケート調査を実施します。趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。本号に同封するアンケート調査票にご回答の上、返送してください。締め切りは８月31日（月）必着とさせていただきます。

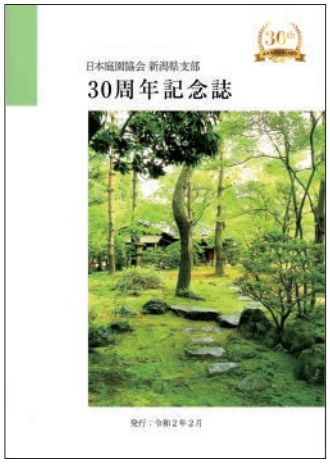
●技術委員会からのお知らせ

「第18回日比谷公園ガーデニングショウ２０２０」は、新型コロナ感染症の影響により中止と決定されました。それに伴い、本年度の技術事業として予定していた出展を中止としました。

新潟県支部からのお知らせ

新潟県支部では、昨年、創立30周年を迎え、この度、長年の活動の集大成として「30周年記念誌」を発行しましたので、紹介します。

新潟県支部の原点は、５名の有志により１９８３（昭和58）年頃に結成された「庭研イン新潟」です。お互いの作品の紹介や石積み等の技術発表をする中で、龍居竹之介氏（当時常務理事、編集委員長）との出会いが、支部創立のきっかけとなりました。１９９０（平成２）年、新発田市五十公野公園を会場とした「第１回伝統庭園技塾」開催の経緯や研修内容、さらに、その後の支部の躍進など、興味深い内容が満載です。機会がありましたらご一読を。



編集後記

★当会事業の多くが実施を見送っている中、庭園協会ニュース第１０１号は予定通り発行できました。関係者のご協力に感謝します。

★新型コロナウイルス感染の影響は、国際活動にも。２年目となるシカゴ・ジャクソンパークの修復事業も中止。新たな展開も状況次第の対応に。

★本号より創立百周年記念事業で開催された講演内容を順次掲載します。今回は粟野隆氏とスティーブ・ブルーム氏の講演。録音テープからの文字起こしは、鈴木貴博、校閲は内田均が担当。ブルーム氏の校閲は、ポートランド日本庭園のご協力をいただきました。

編集担当：小沼康子／内田 均／鈴木貴博／豊蔵 均
本文デザイン：由比まゆみ